



子宮頸がん と HPV ワクチン



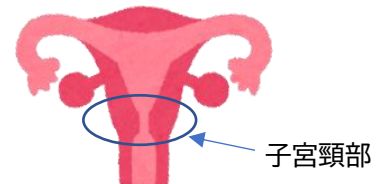
子宮頸がんは、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。

子宮頸がん罹患して妊娠ができなくなったり命を失ったりしている方がいる現状は、非常に深刻な問題です。予防接種を受けるとともに、定期的に子宮頸がん検診を受診し、早期発見・早期治療に努めましょう。

子宮頸がんとは

女性の子宮頸部にできるがんのことです。子宮は、胎児を育てる器官で、子宮頸部は、その入り口部分のことを言います。患者さんは、20 歳代から上昇し 40 歳代でピークを迎えます。

早期に発見されれば、治療により比較的治癒しやすいがんとされていますが、ごく早期のものを除いて子宮の摘出が必要となることがあります。



原因は

子宮頸がんの発生には、ヒトパピローマウイルス（HPV）がかかわっていることがわかっています。HPV は性行為を介して感染し、数年～数十年かけて子宮頸がんを発症させます。また、HPV は男女問わず感染する可能性があるウイルスです。子宮頸がん以外に HPV が原因で発症する病気として、中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなどがあります。

予防は



① HPV ワクチン接種(推奨)

小学校 6 年～高校 1 年相当の女子は、予防接種法に基づく定期接種として、公費により HPV ワクチンを接種することができます。現在、公費で受けられる HPV ワクチンは 3 種類（2 価ワクチン（サーバリックス）、4 価ワクチン（ガーダシル）、9 価ワクチン（シルガード 9））あり、ワクチンの種類によって予防できる HPV の種類に違いがあります。どのワクチンでも、一定の間隔をあけて、同じ種類のワクチンを合計 2 回または 3 回接種する必要があるため、一般的な接種スケジュールを完了するまで約 6 か月かかります。

★公費による接種期間が延長されました★

対象者：1997 年 4 月 2 日～2009 年 4 月 1 日生まれ的女子で、

2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日までに HPV ワクチンを 1 回以上接種した方

期 間：2025 年 3 月 31 日から 1 年間

HPV ワクチンは筋肉注射です。接種後の主な副反応として、発熱や接種部位の痛み、腫れ、注射による痛み・恐怖・興奮などをきっかけとした失神などがあげられます。注射が苦手な方は横になって接種できるため、受診先の医療機関にご相談ください。また、接種後に体調の変化や気になる症状が現れた場合にも、まずは接種を行った医療機関などにご相談ください。

② 子宮頸がん検診を定期的に受診する

20 歳以上の女性は、2 年に 1 回、子宮頸がん検診を受けることが推奨されています。一般的に、子宮頸部の細胞を採取して、細胞に何らかの異常がないか検査する「子宮頸部細胞診」を行います。検診を受けられる場所や費用など、詳細についてはお住まいの市区町村にお問い合わせください。



○保健室からのお知らせ！

楽しく学べるクイズを設定しました(2025 年限定 ver.です)。ぜひチャレンジしてください。

【大学のアカウント・PW でログインしてください】

[國學院大學 女子学生の皆さんへ 知っておきたい「子宮頸がんワクチン」クイズ\[2025.01 改訂\]](#)

<子宮頸がんについて>

公益社団法人 日本産科婦人科学会 HP 子宮頸がん

https://www.jsog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=10

<HPV ワクチンについて>

厚生労働省 HP

[ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～ | 厚生労働省](#)